

質問 QUESTION

回答 ANSWER

脱炭素計画への取り組みは

温室効果ガスの排出量を削減する環境の整備に努めます

町長



坂 悟 さとる

「2050年度までの脱炭素社会実現」を明記した改正地球温暖化対策推進法が2022年4月に施行予定です。政府は当面、太陽光を中心に加速させる方針で2030年度の

排出量を「2013年度対比46%削減する」との中期目標を発表しました。

岐阜県でも5月18日に「県温室効果ガス排出抑制率先実行計画」が策定され「2030年度に2013年度対比70%減」を設定しました。

当町では、再生可能エネルギーの太陽光発電は、撤退工場跡地利用(4・8MW)、家庭用(2・3MW)、民間遊休地利用(1MW程度)で積極的に進められ、推定、当町5471世帯の3分の1以上が賄える発電量です。

一般家庭でも省エネの関心が高く、省エネルギータイプ住宅、HV車の普及が進み、今後は家庭用蓄電池、EV、PHV車の拡大が期待されています。今後、当町施設の省

エネ化推進(照明、冷暖房設備)、安八温泉のボイラーを高効率タイプへ更新等、町全体でCO2削減の必要を強く感じています。

質問 町有施設の照明のLED化率、町公用車両のHV、PHV、EV率と再生可能エネルギー施設の拡大計画があれば教えてください。

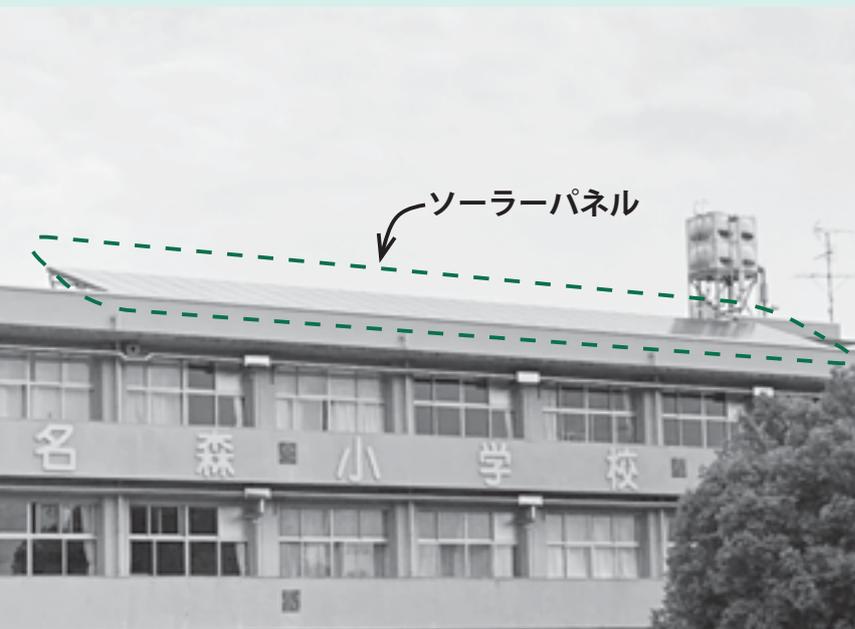
回答 町有施設の照明のLED化率は、すべてがLED化となっている施設は5・6%です。町内の街路灯は、ほぼLEDです。町公用車両のHV、PHV、EV率は、39台(消防車両含む)のうちHV車が4台で、10・3%です。

令和2年度に策定した「安八町中期整備計画」に基づき、計画

的に改修・補修していく中で、特に防災拠点となる指定避難所は、停電時にもエネルギー供給が可能となるような設備を併せて、今後検討します。

質問 2030年度の中期目標(国、県)の発表を受けて、当町の脱炭素計画の取り組みへの考えは。

回答 庁舎内全体で現状の把握に努めるところから始め、何パーセント削減するか削減目標値を明確に定め、その実現に向けて節電や燃料の使用抑制等を実施し、着実に温室効果ガスの排出量を削減していく環境の整備に努めます。



校舎屋上に設置されているソーラーパネル(名森小学校)